

Mosolov



モソロフ:交響曲第5番(1965年)、ハープ協奏曲(1939年)

テイラー・アン・フレッシュマン(hp)アーサー・アーノルド指揮モスクワSO

〈録音:2019年1月〉
[Naxos®8.574102]

特★

1920年代のソヴェエト連邦でその工業力を誇示するかのような管弦楽作品《鉄工場》の作曲家として知られるロシア・アヴァンギャルドの代表的な作曲家の一人アレクサンドル・モソロフ(1900~1973)。彼が時代の旗手として活躍していた時期の作品は様々なアンソロジーを通して聴くことが出来たが、1937年に「反革命的プロパガンダ」の罪状で逮捕され、8年間の強制労働の判決を下されて以降の作品はほとんど知られてこなかった。幸いなことに師グリエールとミヤスコフスキーによるソ連邦最高会議幹部会議長カリーニンへの請願により、8ヶ月で釈放されたものの、その後の創作活動は制限された。

《ハープ協奏曲》は釈放後ほどなく書かれた作品。1939年に3つの楽章だけの初演を担当したのは20世紀を代表する名ハーピスト、ヴェラ・

ドゥローヴァ。そしてガウクの指揮。全曲の初演は2019年に本CDの演奏者たちによって行なわれた。ソヴェエトの名手、ナタリア・シヤメエヴァはその著書「20世紀ロシアにおけるハープ音楽の発展」の中でモソロフの協奏曲を「内容豊かでソヴェエトのハープ・レパートリーの発展の重要なステップとなつている。ドゥローヴァが証言しているようにハーピストに歓迎されただけでなく一般聴衆や批評家からも好意的に受け入れられた」と記している。たしかに作風の前衛性が影を潜めただけでなくメロディへの回帰、和声的明晰さと管弦楽法の透明性といった特性が実感される。特殊奏法への指向も無く、オーケストラの様々な楽器との重奏による響きの快感の探求が試みられている。シヤメエヴァの「多くの面で高度に新機軸を打ち出した」という指摘はその点を衝いているのかもしれない。これは間違いなく20世紀のハープ協奏曲の最高傑作のひとつであろう。実演でもぜひ聴いてみたいものだ。

一方の交響曲第5番は晩年、体制向けの創作をする傍らで密かに書き進められた作品。やはり前衛性に固執はしておらず、既存のあらゆる語法を駆使しているが、強い閉塞感が刻印されているように感じられる。